

## 調査事件1「福島商業高等学校の地域キャンパス校としての存続対策」に係る参考資料

- ◎ 検定試験合格者数調べ ..... P1
- ◎ 「福教委からのお知らせ」チラシ ..... P3
- ◎ 「存続検討委員会からのお知らせ」チラシ ..... P5
- ◎ 入学者支援制度に関する意識調査（分析） ..... P6
- ◎ 入学時における保護者の主な経費負担状況 ..... P7
- ◎ 福島商業高等学校部活動の運営状況 ..... P7
- ◎ 「公立高等学校配置計画案(平成24～26年度)」の考え方について ..... P8

## ◎ 《 検 定 試 験 合 格 者 数 調 べ 》

(単位：人：H23年 1月末現在)

区 分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	検定料
電卓(珠算)	1級	6	6	8	1,600
	2級	10	9	16	1,600
	3級	22	17	20	1,600
	小計	38	32	44	
簿記	会計(1級)	3	2	3	1,000
	原価計算(1級)	1	1	7	1,000
	2級	1	8	5	1,000
	3級	18	25	23	1,000
	小計	23	36	38	
情報処理 (ビジネス)	1級	0	0	1	1,500
	2級	11	15	17	1,200
	3級	24	22	24	1,000
	小計	35	37	42	
情報処理 (プログラミング)	1級	0	0	1	1,500
	2級	0	1	0	1,200
	小計	0	1	1	
ワープロ	1級	4	3	3	1,600
	2級	11	16	14	1,400
	3級	24	26	24	1,200
	小計	39	45	41	
商業経済検定	マーケティング	7	3	14	1,000
	商品と流通	0	7	10	1,000
	経済活動と法	0	0	0	1,000
	小計	7	10	24	
英語検定 (全国商業高等学校協会)	2級	1	0	0	900
	3級	0	0	6	900
	小計	1	0	6	
漢字検定	2級	1	0	2	3,500
	準2級	3	1	6	1,800
	小計	4	1	8	
日商簿記検定	2級	0	1	0	4,500
日本英語検定	2級・準2級・ 3級	0	0	0	3,900 ~ 2,300
乙類第4類 危険物取扱者	引火性液体・ ガソリン等	0	0	0	3,400
合 計		147	163	204	

※ 平成22年度では、全生徒(85名)が、7種類の検定を受け、延べ204名が合格しました。

### ◎ 商業経済検定(下記の3つの検定がある)

- マーケティング : 商品の仕入れと販売等、会社経営学
- 商品と流通 : 商取引の経営学
- 経済活動と法 : 主に民法で、商法、商売上の民事訴訟法等経営学



# 福教委からのお知らせ

平成23年4月

## 福島商業高校への入学支援制度をご存じですか？

### ○入学支援とは？

地元から、高等教育の機会を失うことは、地域教育等にとって多大の損失になることから、高校存続に向けて、関係機関と連携して対策事業推進しているところです。

高校存続のためには入学者数の確保が最大の条件であることから、町では、入学奨励金や通学補助の制度を実施し、保護者の負担軽減などを図るための対策を講じています。

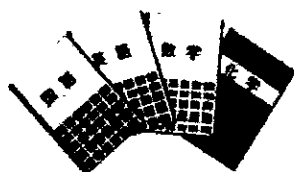
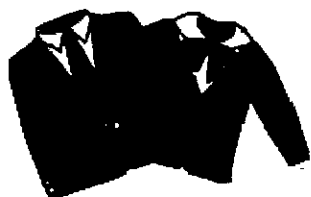
さらに、今年度からは各種検定料の補助を実施し、商業高校としての実学である各種資格取得を奨励することになりました。(高校、大学卒業後、いずれは就職することになりますので、実社会ですぐに役立つ各種資格取得を積極的に支援します。)

## 入学支援の概要

### ※ 継続している支援策

#### ○入学奨励金

入学生の制服や学用品などの費用負担を軽減するために5万円を支給いたします。



#### ○通学費補助

通学の交通費、月額5,000円を超えた分を補助します。

例：吉岡バス停からバス通学 月額11,740円

月11,740円×12ヶ月=140,880円(年間額)

自己負担額 月5,000円×12ヶ月=60,000円

140,880円-60,000円=80,880円(補助金)

### ※ 新しい支援策(23年度から実施)

#### ○各種検定受験補助

今年度から、各種検定の検定料を補助します。ただし、下記の検定に合格した生徒が対象です。

※ 資格取得「福島商業高校 新記録」  
平成22年度に、3年生男子が7種類の検定で1級を取得し、北海学園大学への推薦入学が決定しました。

検 定 名 (平成22年度受験実績)	検 定 料	22年度合格者	
珠算・電卓実務検定	1~3級	各 800円	44名
簿記検定	会計(1級)	各 1,000円	3名
	原価計算(1級)		7名
	2~3級		28名
情報処理検定 (ビジネス、プログラミング)	1級	1,500円	2名
	2級	1,200円	17名
	3級	1,000円	24名
ワープロ検定	1級	1,600円	3名
	2級	1,400円	14名
	3級	1,200円	24名
商業経済検定	マーケティング	各 1,000円	14名
	商品と流通		10名
全商英語検定	2~3級	各 900円	6名
漢字検定	2級	3,500円	2名
	準2級	1,800円	6名
日商簿記検定	2級	4,500円	0名
日本英語検定	2級・準2級・3級	3,900円~2,300円	0名
乙種第4類危険物取扱者	引火性液体・ガソリン等	3,400円	0名

※ 平成22年度では、全生徒(85名)が、7種類の検定を受け、延べ204名が合格しました。

# 進路について

福島商業高校は、就職・進学とも例年ほぼ100%近く決まっており、各種資格取得者も年々増加傾向にあります。学校の指導方針は、資格取得・進学・就職等、それぞれの合格率や就職率の達成度を上げるため、生徒の能力に応じた個人指導等、放課後や休日を返上して、全校をあげて全力で取り組んでおります。成果として、1人の生徒が7種類の検定で1級を取得するなど、全道的にも数少ない事例でもあり、学校としての評価が上がってきています。

指定校推薦については、経済系の私立大学であれば、全てに近い推薦を得ることもでき、高校で取得した資格を活かして、大学で資格をレベルアップし、実社会での活躍も可能です。

## ○過去3年間の卒業生の進路

進 学	就 職
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道教育大学函館校（人間地域学科課程）</li> <li>・札幌大学（法学部法学科、経営学部経営学科）</li> <li>・札幌学院大学（社会情報学部社会情報学科）</li> <li>・大原法律公務員専門学校（法律行政学科）</li> <li>・函館医療保育専門学校（看護科） など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人社団江山会 江口眼科病院</li> <li>・野口観光株式会社</li> <li>・かた観光株式会社 定山溪ビューホテル</li> <li>・株式会社 JOMO ネット</li> <li>・株式会社 北海道銀行 など</li> </ul>

## ○大学・短大指定校制推薦一覧 ☆ 小規模高校としての優位性（推薦枠多数）☆

道内4年生大学	短 大	道外大学
<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌学院大学</li> <li>・札幌国際大学</li> <li>・北海学園大学</li> <li>・千歳科学技術大学</li> <li>・函館大学</li> <li>・苫小牧駒沢大学</li> <li>・北海道工業大学 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専修大学北海道短期大学</li> <li>・函館大谷短期大学</li> <li>・函館短期大学</li> <li>・札幌大学女子短期大学部</li> <li>・北翔大学短期大学部</li> <li>・國學院短期大学</li> <li>・札幌国際大学短期大学部 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉商科大学</li> <li>・北陸大学</li> <li>・和光大学</li> <li>・東京工芸大学</li> <li>・八戸工業大学</li> <li>・山梨学院大学</li> <li>・大阪経済法科大学 など</li> </ul>



### 指定校推薦とは？

推薦の一種で各大学が本校のみ割り当てた枠のことで、3年間の学習活動・検定取得・特別活動（生徒会活動・部活動）などの頑張りが評価され、本校と大学の信頼関係のもとで入学できる制度です。

## ○東京農業大学との連携

昨年度、福島町と東京農業大学との間で連携協定が締結されました。この連携に基づき福島商業高校では、大学の教授や学生を招いての講義や、東京農業大学オホーツクキャンパス進学の推薦枠確保を進めております。

### ☆商業高等学校卒業生も進学できる学科があります☆

#### ○東京農業大学オホーツクキャンパスの全学科紹介

- ・生物生産学科…環境に配慮した生産技術の開発や、新しい生物資源機能の開発・応用の研究
- ・食品香粧学科…食品と香粧品の科学および製造に関する教育・研究を行います。
- ・産業経営学科…利潤や効率を追い求める従来の経営とは異なる視点から、地域産業の自律的な発展と環境との両立を探究
- ・アクアバイオ学科…水産養殖、マリンレジャー産業をはじめとした食料・環境問題などの研究

福島町教育委員会

## 地元の高校・福島商業高校を存続させよう！

今年度の福島商業高校の入学者は、地域キャンパス校として一定の目安である20名を割り込む15名となりました。これまでの北海道教育委員会の高等学校再編に係る経緯を見ますと、高校存続に向けては、来年度の高校入学者は、現在の中学3年生30名の50%を超える20名以上の確保が必須条件となってまいります。

7月23日に「福島商業高等学校存続検討委員会」を開催し、入学者確保に向けては、現行の対策に加えて、より積極的な入学支援策や、学校PR活動の対応が必要であるとの意見も出されたところです。

町教育委員会では、これまでの下記に示すような福島商業高校入学支援制度に加え、入学奨励金や学校部活動などへの支援策の強化を検討することとしており、来年度の高校進学予定者においては、ぜひ、福島商業高校への入学に向けたご検討をお願いいたします。

### 地元、商業高校の見方を変えてみませんか

商業高校の学習を通して、「経済を読み取る力」「簿記会計能力」「情報処理能力」「マーケティング能力」を身につけることができます。

また、商業に欠かせない「ビジネスマナー」や「コミュニケーション能力」を身につけ、卒業後に事務や販売、サービス等の就職で、社会人として求められる能力が身につきます。

**商業高校から大学に進学の場合、商学部、経営学部、経済学部、その他の文系学部と、多くの大学推薦枠を活用**することができ、推薦枠や優遇制度を活用できる実力を身につけ、進むべき道をはっきりと見据えた計画を考えることが可能となります。(東京農業大学も、今年度から推薦枠が決定しました。)

### 資格取得による授業料等の優遇制度(一部の大学) (例)札幌大学

全国商業高等学校協会の検定

1級7種目以上取得 授業料(4年間)全額免除

1級5種目以上取得 授業料(4年間)半額免除

(例：私立大学平均年間授業料、約70万円)

### キャンパス校に危機

熊石高校、道内キャンパス校で初の閉校。

(2014年度で募集停止となる。)

他のキャンパス校も「人ごとではない」。

熊石高校は、地域キャンパス校に指定されて2年目となるが、2年連続して1学年20人以下であり、その後も生徒数の増加が見込まれないことから、統廃合の対象になった。(道教委)

## 福島商業高校への入学支援制度をご存じですか？

- ① 新規入学奨励金・・・入学奨励金 5万円を支給します。
- ② 通学定期補助金・・・通学定期購入に要する、月額5千円を超えた額を補助します。  
例：吉岡バス停からバス通学の場合  
年間額 140,880円 - 自己負担年額 60,000円 = 町補助額 80,880円
- ③ 各種検定料助成金・・・今年度から始まった支援制度ですが、全生徒が受験する卒業要件の単位認定として認める各検定、及び学校で推奨する検定に合格した場合、**検定料の全額を助成**します。

◎ 《福島商業高等学校への入学者支援制度等に関する意識調査（分析）》

（中学3年生保護者用 アンケート 調査月日：6月14日）

※ 配布40件中 回収29件（回収率73%）

☆ 現時点における、進学先の第1希望校についてお聞きします。

- ① 地元の学校を希望。 12件
- ② 函館市内の学校を希望。 7件
- ③ その他の市町の学校を希望。 7件
- ④ まだ、決めていない。 3件（1件：普通科と商業科）  
（1件：商業科と福祉科）  
（1件：まだ、決めていない）

☆ 福島商業高校に入学する場合、別添の啓発資料にあるような福島町の「高校存続支援制度」により、入学奨励金や補助金等を受けることが出来ますが、そうした制度があることを知っていましたか。

※ 町支援制度の、学校希望別、認知度分析

区 分	① 知っていた	② 知らなかった	備 考
① 地元の学校を希望	9	3	
② 函館市内の学校を希望	5	2	
③ その他の市町の学校を希望	4	3	
④ まだ、決めていない	2	1	
計	20件	9件	

☆ 地元で高校を存続させるための支援策としての、入学奨励金や補助金等の内容についてお聞きします。

※ 町支援制度への保護者の考えと、学校希望別での考え方の分析

区 分	①支援制度の内容として妥当であると思う	②支援制度の内容を増額又は拡大してもよいと思う	③支援制度の内容を減額又は縮小してもよいと思う	④ その他 ⑤ 無回答
① 地元の学校を希望	5	7	0	0
② 函館市内の学校を希望	4	2	1	0
③その他の市町の学校を希望	2	4	0	1 (⑤無回答)
④ まだ、決めていない	1	2	0	0
計	12件	15件	1件	1件

## ◎ 《入学時等における保護者の主な経費の負担状況》

町における存続対策支援事業の一環として、入学奨励金（5万円）を実施しておりますが、保護者が福島商業高等学校入学時に、最低限、負担を要する実質的な経費は、高等学校から情報提供していただいた結果、下記の内容となっております。

区 分	男子生徒	女子生徒
制服等	61,000円	68,000円
入学時諸納金（教材費等）	27,000円	27,000円
後援会費（年額）	15,000円	15,000円
計	103,000円	110,000円

## ◎ 《福島商業高等学校部活動の運営状況》

高校における今年度の部活動状況は、体育系5部と文化系2部で構成されています。なかでも、陸上部の高体連における活躍は、3姉妹での全道大会出場がメディアに取り上げられたように、目覚ましいものがあります。

また、文化系の競技会参加では、ワープロ部が年2回の全道競技大会に参加して、上位入賞の結果を出している状況にあります。

### （1） 後援会会計における会費と生徒数の推移について

本会計の会費は生徒1人当り年額14,400円を徴収し、主に部活動振興費、大会参加・引率旅費、校内大会費などに支出されています。

区 分	平成23年度	平成22年度	平成21年度
生徒数	67人	84人	99人
前年比	△17人	△15人	4人
会 費	892,800円	1,106,400円	1,300,800円
前年比	△ 213,600円	△ 194,400円	33,600円

### （2） 後援会会計の支出状況について

区 分	平成23年度（見込）	平成22年度	平成21年度
大会参加等旅費	1,200,000円	1,167,949円	772,860円
その他の経費	482,100円	332,487円	412,586円
計	1,682,100円	1,500,436円	1,185,446円
(会費)－(支出)	△ 789,300円	△ 394,036円	115,354円

※ 各年度の不足額については、前年度繰越金や全国大会等出場遠征基金により補填されています。（平成22年度は、基金より21万円を充当）

# I 公立高等学校配置計画（平成24年度～26年度）策定の考え方

## 1 趣旨

「公立高等学校配置計画」（以下、「配置計画」という。）は、高等学校進学希望者数に見合った定員を確保することを基本として、中学校卒業者数（以下、「中卒者数」という。）の状況を踏まえ、生徒の多様な学習ニーズ、進路動向などに対応した学校・学科の配置や規模の適正化を図るために、平成24年度から平成26年度までの高校配置の計画を策定するとともに、平成27年度から平成30年度までの見通しを示したものである。

## 2 中卒者数の見込み

本道の中卒者数は、平成24年に4万8,845人、平成25年に4万7,947人、平成26年に4万7,460人となる見込みであり、その後も総じて減少傾向にある。

## 3 基本的考え方

配置計画の策定に当たっては、平成18年に策定した「新たな高校教育に関する指針」（以下、「新たな指針」という。）に基づき、中卒者数の増減に適切に対応し、教育水準の維持向上などを図る観点から、地域の実情、私立高校の配置状況等を考慮しながら定員の調整や学校の再編整備等を行うとともに、都市部において複数の高校が設置されている場合、望ましい規模の学校についても、地域の実情などに応じて再編整備を実施する。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、次のとおり新しい高校づくり等を推進する。

### (1) 地域キャンパス校の導入

他の高校への通学が困難な地域を抱え、かつ地元からの進学率が高い（普通科はおよそ1/2、専門学科はおよそ1/4）第1学年1学級の高校を地域キャンパス校とし、センター校からの出張授業や通信機器を活用した教育活動への支援等により、教育環境の充実を図る。

### (2) 総合学科の設置

生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じて、普通教育と専門教育に関する多様な科目を選択して学ぶことができ、幅広い進路希望に対応が可能となる総合学科の設置を再編にあわせて進める。

### (3) 普通科単位制の導入

学年による教育課程の区分を設けず、高校の生徒が必ず学ばなければならない科目のほか、学校が開設した多数の選択科目の中から、興味・関心や進路希望等に応じて自分で科目を選択し、主体的な学習が可能となる単位制の導入を進める。

### (4) フィールド制の導入

普通科の特色づくりとして、まとまりのある分野の科目群をフィールドとして設定し、興味・関心や進路希望等に応じて自分でフィールドを選択して学習することが可能となるフィールド制の導入を進める。

### (5) 職業学科の学科転換

産業構造の変化や学科の配置状況、生徒の進路動向などを考慮し、職業学科の学科転換を図る。

(6) 産業キャンパスの活用

職業学科を含めた再編の際にあわせ、産業教育施設や実習地などを有効に活用するため、産業キャンパス化について検討する。

4 配置計画（平成24年度～26年度）の概要

昨年決定した平成24年度及び平成25年度の計画を一部変更するとともに、新たに平成26年度の配置計画を策定する。

(1) 学級定員

「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」に基づき、1学級の定員は40人とする。

(2) 平成24年度～25年度（平成22年度決定）高校配置計画の変更

全日制課程

ア 学級増減

平成23年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、学級減を行った余市紅志高校、松前高校、森高校、足寄高校及び標茶高校について、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、平成24年度にそれぞれ1学級の増を行う。

また、土別翔雲高校について、中卒者数の状況等を総合的に勘案し、平成24年度に普通科の1学級の増を行う。

イ 新設

平成24年度に三笠市が三笠高校（食物調理科）を設置する。

ウ 地域キャンパス校の導入

今後の中卒者数の状況などを考慮し、平成24年度から新たに津別高校を地域キャンパス校とする。

エ その他

平成23年度の入学者選抜の結果、第2次募集後の入学者に1学級相当以上の欠員が生じ、1学級減を行った新得高校について、平成25年度の1学級の減を行わない。

また、岩見沢東高校について、平成24年度に空知南学区所在の私立高校が募集停止となること等を考慮し、平成25年度の1学級の減を行わない。

(3) 平成26年度高校配置計画

ア 全日制課程

(ア) 学級増減

各通学区域内の中卒者数を基礎として、生徒の進路動向や学校・学科の配置状況、各学校の在籍状況などを総合的に勘案し、7校で7学級の減を行う。

(イ) 再編整備

地域キャンパス校である熊石高校について、5月1日現在の第1学年の在籍者が20人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれないことなどから、募集停止とする。

## イ 定時制課程

旭川工業高校において、5月1日現在の第1学年の在籍者が10人未満となり、その後も生徒数の増が見込まれない土木科を建築科と再編し、学科転換を行う。

## 5 配置計画の変更

配置計画を策定した後、急激な中卒者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合など、通学区域における中卒者の進路動向等を見極めて、毎年度再検討するほか、次の(1)～(3)に掲げる場合にあっては配置計画を変更することとする。

- (1) 入学者選抜における第2次募集の合格発表後、配置計画で示した募集人員に対し1学級相当以上の欠員が生じた場合。
- (2) 5月1日現在の第1学年の在籍者が新たな指針に示した人数要件に該当し、その後も生徒数の増が見込まれない場合。
- (3) 市町村立高校について、当該市町村において募集人員等の変更を行った場合。